

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 福岡財務支局長

【提出日】 平成29年8月7日

【四半期会計期間】 第46期第1四半期(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

【会社名】 イフジ産業株式会社

【英訳名】 Ifuji Sangyo Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藤井 宗徳

【本店の所在の場所】 福岡県糟屋郡粕屋町戸原東二丁目1番29号

【電話番号】 092-938-4561(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 原 敬

【最寄りの連絡場所】 福岡県糟屋郡粕屋町戸原東二丁目1番29号

【電話番号】 092-938-4561(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役総務部長 原 敬

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
証券会員制法人福岡証券取引所
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第45期 第1四半期 連結累計期間	第46期 第1四半期 連結累計期間	第45期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日	自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	3,520,766	3,596,908	14,248,396
経常利益 (千円)	170,667	154,995	681,300
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	116,894	121,444	533,492
四半期包括利益又は 包括利益 (千円)	120,363	141,423	559,770
純資産額 (千円)	4,497,039	4,935,541	4,869,258
総資産額 (千円)	9,616,003	10,879,398	10,650,648
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	14.03	14.58	64.04
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	46.8	45.4	45.7

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業業績や雇用環境の改善が見られ緩やかな回復基調で推移したものの、中国や新興国の経済成長の鈍化や米国新政権への懸念等により海外の経済動向の不確実性が増し先行き不透明な状況となっております。

食品業界におきましては、原材料価格の上昇や人件費の高騰等により商品の値上げが続いており、消費者の生活防衛意識が強まることが予想されます。

このような状況の中、当社グループの当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は、主に鶏卵関連事業において販売数量が前年同期比5.3%増と好調に推移したこと等により、前年同期比2.2%増の3,596百万円となりました。

損益につきましては、減価償却費の増加や調味料関連事業の売上減少に伴う減益等により、営業利益は同10.2%減の149百万円、経常利益は同9.2%減の154百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は補助金収入33百万円を特別利益に計上したこと等により同3.9%増の121百万円となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

鶏卵関連事業

当セグメントにおきましては、主要な商品である液卵の製品販売単価及び原料仕入単価が鶏卵相場に連動して変動するものが多く、鶏卵相場が高く推移した場合は製品販売単価及び原料仕入単価ともに高く推移し、低く推移した場合は製品販売単価及び原料仕入単価ともに低く推移する傾向にあるため、製品販売単価と原料仕入単価の差益を一定額以上確保するとともに販売数量を伸ばす努力をしております。

当セグメントにおける業績の重要な指標である販売数量につきましては、マヨネーズ向けや冷凍食品向けへの販売が増加したこと等により前年同期比5.3%増となりました。売上高につきましては、主に販売数量の増加により液卵売上高は前年同期比4.2%増の3,120百万円となりました。また、加工品売上高は同2.3%減の132百万円、その他売上高は同1.1%減の64百万円となりました。この結果、当第1四半期連結累計期間の合計の売上高は、同3.8%増の3,316百万円となりました。

セグメント利益につきましては、減価償却費が増加したものの販売数量増による売上高の増加等により前年同期比0.5%増の136百万円となりました。

調味料関連事業

当セグメントの売上高につきましては、既存商品の販売や当社グループ内での輸入粉卵の委託加工等の販売が減少したこと等により、前年同期比19.0%減の284百万円となりました。

セグメント利益につきましては、主に売上高が減少したことにより、前年同期比69.2%減の8百万円となりました。

その他

当セグメントにつきましては、売上高は前年同期比36.3%増の8百万円となり、セグメント利益は同111.0%増の4百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は10,879百万円となり、前連結会計年度末に比べ228百万円増加しました。

流動資産は5,392百万円となり、前連結会計年度末に比べ269百万円増加しました。主な要因は、現金及び預金の増加457百万円、受取手形及び売掛金の減少132百万円等によるものであります。

固定資産は5,486百万円となり、前連結会計年度末に比べ40百万円減少しました。主な要因は、建物及び構築物の減少31百万円及び機械装置及び運搬具の減少54百万円等によるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末の負債合計は5,943百万円となり、前連結会計年度末に比べ162百万円増加しました。

流動負債は3,166百万円となり、前連結会計年度末に比べ30百万円増加しました。主な要因は、短期借入金の増加30百万円、未払消費税等の増加49百万円、支払手形及び買掛金の減少27百万円、未払法人税等の減少62百万円等によるものであります。

固定負債は2,777百万円となり、前連結会計年度末に比べ131百万円増加しました。主な要因は、長期借入金の増加116百万円等によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末の純資産合計は4,935百万円となり、前連結会計年度末に比べ66百万円増加しました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益121百万円の計上及び配当金の支払い74百万円により利益剰余金が46百万円増加したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の45.7%から45.4%となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの経営方針・経営戦略等について、重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は36百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,792,000
計	16,792,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成29年6月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年8月7日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	8,345,370	8,345,370	東京証券取引所 市場第一部 福岡証券取引所	単元株式数 100株
計	8,345,370	8,345,370		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年4月1日～ 平成29年6月30日		8,345,370		455,850		366,322

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 15,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,253,300	82,533	
単元未満株式	普通株式 76,870		
発行済株式総数	8,345,370		
総株主の議決権		82,533	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式27株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) イフジ産業株式会社	福岡県糟屋郡粕屋町 戸原東二丁目1番29号	15,200		15,200	0.18
計		15,200		15,200	0.18

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,138,488	2,596,204
受取手形及び売掛金	2,041,752	1,909,104
商品及び製品	527,324	521,363
仕掛品	60,134	61,176
原材料及び貯蔵品	241,378	228,091
繰延税金資産	23,307	29,716
その他	95,193	51,186
貸倒引当金	4,335	4,335
流動資産合計	5,123,242	5,392,507
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,049,580	2,018,314
機械装置及び運搬具(純額)	1,381,625	1,327,471
土地	1,890,751	1,890,751
その他(純額)	28,947	33,523
有形固定資産合計	5,350,904	5,270,061
無形固定資産		
投資その他の資産	23,408	21,254
投資有価証券	134,690	163,885
その他	23,367	36,653
貸倒引当金	4,964	4,964
投資その他の資産合計	153,092	195,574
固定資産合計	5,527,406	5,486,890
資産合計	10,650,648	10,879,398
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	678,380	650,725
短期借入金	1,567,180	1,597,190
未払法人税等	125,590	63,347
未払消費税等	3,262	52,361
賞与引当金	59,656	37,373
役員賞与引当金		10,600
その他	701,742	754,750
流動負債合計	3,135,810	3,166,347
固定負債		
長期借入金	1,966,767	2,082,892
長期未払金	567,235	567,235
繰延税金負債	88,974	102,734
その他	22,602	24,646
固定負債合計	2,645,580	2,777,508
負債合計	5,781,390	5,943,856
純資産の部		
株主資本		
資本金	455,850	455,850
資本剰余金	366,338	366,338
利益剰余金	3,997,330	4,043,803
自己株式	6,596	6,764
株主資本合計	4,812,922	4,859,227
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	56,335	76,313
その他の包括利益累計額合計	56,335	76,313
純資産合計	4,869,258	4,935,541
負債純資産合計	10,650,648	10,879,398

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	3,520,766	3,596,908
売上原価	2,937,127	3,035,238
売上総利益	583,639	561,670
販売費及び一般管理費	416,909	411,980
営業利益	166,729	149,690
営業外収益		
受取利息	123	62
受取配当金	121	161
受取賃貸料	6,252	6,254
その他	1,743	2,983
営業外収益合計	8,241	9,461
営業外費用		
支払利息	4,304	4,155
営業外費用合計	4,304	4,155
経常利益	170,667	154,995
特別利益		
補助金収入		33,000
特別利益合計		33,000
特別損失		
固定資産除売却損	2,735	326
特別損失合計	2,735	326
税金等調整前四半期純利益	167,931	187,668
法人税、住民税及び事業税	58,368	67,640
法人税等調整額	7,331	1,416
法人税等合計	51,037	66,224
四半期純利益	116,894	121,444
非支配株主に帰属する四半期純利益		
親会社株主に帰属する四半期純利益	116,894	121,444

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	116,894	121,444
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,469	19,978
その他の包括利益合計	3,469	19,978
四半期包括利益	120,363	141,423
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	120,363	141,423
非支配株主に係る四半期包括利益		

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)
減価償却費	70,899千円	107,419千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月28日 定時株主総会	普通株式	66,648	8	平成28年3月31日	平成28年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
 該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月28日 定時株主総会	普通株式	74,971	9	平成29年3月31日	平成29年6月29日	利益剰余金

(注) 1株当たり配当額には、東京証券取引所市場第一部に指定されたことを記念した記念配当1円が含まれております。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日後となるもの
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	鶏卵関連事業	調味料関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,194,329	320,363	3,514,693	6,072	3,520,766
セグメント間の内部売上高 又は振替高	417	31,279	31,697		31,697
計	3,194,747	351,643	3,546,390	6,072	3,552,463
セグメント利益	135,580	28,985	164,566	2,163	166,729

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
 (差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	164,566
「その他」の区分の利益	2,163
四半期連結損益計算書の営業利益	166,729

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	鶏卵関連事業	調味料関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,316,349	272,279	3,588,628	8,279	3,596,908
セグメント間の内部売上高 又は振替高	498	12,377	12,876		12,876
計	3,316,847	284,657	3,601,505	8,279	3,609,784
セグメント利益	136,211	8,914	145,126	4,563	149,690

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、太陽光発電事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
 (差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	145,126
「その他」の区分の利益	4,563
四半期連結損益計算書の営業利益	149,690

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
 該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	14円03銭	14円58銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	116,894	121,444
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	116,894	121,444
普通株式の期中平均株式数(株)	8,331,023	8,330,042

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年 8 月 4 日

イフジ産業株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 竹之内 高 司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 寺 田 篤 芳 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているイフジ産業株式会社の平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)及び第1四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、イフジ産業株式会社及び連結子会社の平成29年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。